

(財) 地震予知総合研究振興会
長岡平野西縁断層帯の活動性評価に関する研究委員会 (第4回)

概要報告

1. 日 時 平成23年10月18日(火) 13:30~16:30

2. 出席者

主査	東北大学	名誉教授	長谷川 昭
委員	東京大学	名誉教授	阿部 勝征
	東京大学地震研究所	教授	岩崎 貴哉
	長岡技術科学大学	教授	大塚 悟
	東北大学	准教授	岡田 知己
	防災科学技術研究所		岡田 義光
	東京大学	名誉教授	金沢 敏彦
	日本大学総合科学研究所	教授	工藤 一嘉
	東京大学地震研究所	准教授	酒井 慎一
	名古屋大学	教授	鷺谷 威
	東京大学地震研究所	教授	平田 直
顧問	東北大学	名誉教授	大竹 政和
	(財) 地震予知総合研究振興会会長		高木 章雄
事務局	(財) 地震予知総合研究振興会		

(敬称略)

3. 議第

- (1) 首都圏地震観測網 (MeSO-net) による南関東の3次元速度構造と地震活動
- (2) 平成23年度上半期の活動報告
- (3) 今後の長岡平野西縁断層帯の研究

4. 委員会の状況

今年度実施計画の一部変更について事務局より説明があったのち、今後の調査研究の推進に反映することを目的に、関連する最新の調査研究である「首都圏地震観測網（MeSO-net）による南関東の3次元速度構造と地震活動」の紹介があった。また、平成23年度上半期の活動報告として、①観測点の維持管理状況および地震活動状況等、②東北地方太平洋沖地震による長岡平野周辺の地震動の空間分布、③長岡平野西縁断層帯周辺のGPS観測についての説明があった。さらに、他機関の過去の地震観測記録を組み合わせ用いた検討など今後の長岡平野西縁断層帯の研究に関する説明がなされた。

（1）首都圏地震観測網（MeSO-net）による南関東の3次元速度構造と地震活動

国（文部科学省）が2007年度から5カ年計画で「首都直下地震防災・減災特別プロジェクト」を進め、その一環として、「首都圏周辺でのプレート構造調査、震源断層モデル等の構築等」が行われている。この研究では約300観測点からなる首都圏地震観測網（MeSO-net）が構築され、主として走時トモグラフィー法によって首都圏下のプレート構造が解明されており、その検討内容と東方地方太平洋沖地震前後の地震活動の変化について説明が行われた。委員会では、その検討内容に関する意見交換が行われた。

（2）平成23年度上半期の活動報告

平成23年度上半期の活動報告が行われた。

- ① 観測点の維持管理状況および地震活動状況の説明が行われ、委員会では、特に、本検討会で整備した稠密地震観測網（AN-net）のために開発した自動読み取り・震源決定システムの推定精度向上に向けた意見交換が行われた。
- ② 東北地方太平洋沖地震時のAN-netでの観測記録について、説明が行われた。
- ③ 東北地方太平洋沖地震に伴う長岡平野西縁断層帯周辺の地殻変動についてGPS観測記録の説明が行われた。東北地方太平洋沖地震に伴い地殻変動の様子は、東西圧縮から東西伸張に一変していることが確認された。

（3）今後の長岡平野西縁断層帯の研究

長岡平野西縁断層帯の活動性を評価するうえで、地震発生層の推定、応力状態の変化及び地震波の伝播特性を把握する必要があることを整理したうえで、今後の研究内容について説明が行われた。委員会では、稠密地震観測記録など多くのデータに基づく検討の必要性、それを可能にする自動処理システムの開発の重要性が確認された。

以上